

式辞

本日、鈴鹿工業高等専門学校を卒業、修了される皆さん、ご列席のご家族など、ご関係の皆様。今日の良き日を迎えられたことを本校の教職員を代表して、心よりお慶び申し上げます。このたび、学科190名、専攻科32名がそれぞれ卒業、修了されます。学科卒業の方々には、マレーシアからの留学生2名も含まれています。

さて、本校は1962年に創設され、1967年3月に第1期120名の方々が初めて卒業されました。以来、毎年3月に優秀な人材を世に送り出してきましたが、本年度は、第60回の卒業式を行うとともに、ちょうど1万人目の方が卒業されます。このような数字は一つの偶然に過ぎませんが、鈴鹿高専出身の方々が1万人もおられることに思いを巡らせていただきたいと思います。

ところで、日本は1991年以来、失われた30年ともいわれる低成長の時代が続きました。様々な統計を見ますと、日本のGDP、物価、工業出荷額、給与水準など、他にも色々あるのですが、先進国の中で日本だけが30年間ほとんど増加しませんでした。この間に日本では例えば製造業ではコスト低減で他と差別化することが研究開発の主な目標となり、一方流通業などでは新しいサービスの提供よりも、人件費を低く抑えることに注力してきました。この間に世界では様々な新しい発想に基づく事業が興り、経済をけん引してきましたが、日本ではイノベーションに乏しく、経費節減などの後ろ向きの対策に大きなエネルギーを費やしてきたことになります。そこには、従来の方法論の延長で物事をすすめようとする日本特有の社会の在り方が関係しているのかもしれませんが、一方で、日本は第2次世界大戦の後、奇跡の復興と言われる高度成長が続きましたが、その間の世界は東西冷戦の時代でもありました。東西冷戦の終結は1989年ないしは1991年とされていますが、その頃より日本の失われた30年が始まったことになります。つまり、冷戦後の世界情勢の比較的緩やかな変化が日本の低成長を許容したと言えるかもしれません。そして、コロナ禍のパンデミック後に、いま世界は混迷の時代となりました。国際秩序が大きく崩れ、大国が武力行使を躊躇しなくなり、これまでの常識が通用しない世の中になりつつあります。

さて、ここ数年前より日本は永らく続いたデフレから脱却し、経済成長の兆しが見えはじめ、昨年度あたりからは給与が増加し始めました。また長らく低迷が続いた半導体産業や、造船業にも注目が集まりつつあります。現政権の高市総理は17の成長分野を掲げ、製造業を中心とした日本の発展を目指しています。先

程から申し上げている通り、いま世界および日本の情勢はいずれも大きく変わりつつあります。さらに、AIの急速な発展が社会にどのような影響を及ぼすか、誰も予測できません。これまでと同様の発想や仕事の仕方では世界の潮流に追随できないと、私は考えています。これまでとは異なった発想で物事に取り組むことが必要です。先ほど、今年本校から1万人目の卒業生が出ると申し上げました。この数字が多いか少ないかは人によって受け止め方は異なるでしょう。しかし、皆様ご存知のように高等専門学校は世界的にも特別な教育システムであり、日本では皆さんと同世代の中でほぼ100人に一人のみが高専で学ばれています。これは大変少ないと言ってよいでしょう。皆さんの先輩たちは世の中で、特に製造業にて重要な役割を果たしてきました。皆さんは工学の分野で、実践的で具体的に言えばよく手が動くことを学ばれてきたとともに、様々な創造的な教育も受けてこられた100人に一人の貴重な存在です。実際に、ここ数年前より高等専門学校が注目されつつあります。このことは皆さん方が世の中で必要とされているということです。これから社会に出られる皆さん方がユニークな発想で、日本も世界もこれまでに経験したことのない大きな変革期にある世の中をけん引していくことを大いに期待いたします。本校で学んだ創造性を発揮する精神は、みなさんがこれから経験するであろう困難に立ち向かうのに必ず役に立ちます。また、大学に編入学される方々は、高専と大学の学生生活の違いにまず戸惑うと思います。自分を見失うことがないことを願っています。多くは工学部に編入学されますが、可能であればぜひ大学院まで進学されることをお勧めいたします。一方、専攻科に進まれる方は、それぞれの関心のある分野での学習・研究を発展させていただくとともに、下級生にとってよき先輩であってください。さらに、留学生の方々はそれぞれ異なる進路が待っています。日本で学んだことを活かされることを期待しています。

今日、ここにお集まりの皆様方、改めて卒業・修了おめでとうございます。この良き日が、卒業・修了される方々の人生の新たな門出となることを祝福して、私からの式辞といたします。

令和8年3月19日

鈴鹿工業高等専門学校長 藤本慎司